

	評価すべき点	評価に当たっての意見、指摘等								
<p>全体評価</p> <p>全体として年度計画及び中期計画のとおりに進捗している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2期の重点的な取組みである、医療機器整備等への積極的な投資や優れた医療スタッフの確保育成を着実に進めており、各病院が掲げる目標に基づき、診療機能の充実強化や患者サービスの向上を図るとともに、大阪府の新たな医療課題に対応して、医療施策の実施機関としての役割を着実に果たしている。 ○ 大阪府の医療施策の実施機関として必要な対応を行い、各病院が各々の医療課題に対し、着実に計画を達成するとともに、府民の期待に応えられるよう診療機能の充実強化や患者サービスの向上に取り組んでいる。 ○ 各病院において地域医療機関とのさらなる連携を図り、地域連携の強化による府域医療水準の向上に努めている。 ○ 各病院が医療施策の実施・診療機能の充実強化を図り、優れた人材の確保に努め診療機能充実のための基盤づくりを推進した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ PDCAサイクルでは、課題を抽出し改善につなげていくことが重要であり、評価にあたっては、プラス情報だけでなく、未達成項目についてその要因を分析し、整理する必要がある。 ○ 府立病院機構は大阪の医療のヘッドクォーターの役割を担うべく、府の政策医療を踏まえつつ、高度先進医療の推進・質の高い医療従事者の育成等、引き続き府域全体の医療水準の向上に寄与することを求めたい。 ○ 医療の安全と質の向上には、優れた医療スタッフの確保が必須であり、そのためには働きやすい職場環境の改善、労働安全衛生の確保など、より一層の取組みが重要である。 ○ 今後、機構本部は、各病院の共通課題の改善に向けた目標を掲げて、取り組むことを期待する。 ○ 目標値の設定においては、病院が果たすべき役割を踏まえ、何を目標とするのが適切かどうか検討されたい。 								
<p>府民に提供するサービスその他の業務の質の向上</p> <table border="1" data-bbox="142 772 498 850"> <tr> <td>H23</td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> </table> <p>A：計画どおり</p>	H23	H24	H25	H26	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院において様々な地域連携強化に取り組み、目標値を上回る紹介率など計画以上の成果を上げている。 ○ 医療の標準化と最適な医療の提供についても、入院における患者の負担軽減、分かりやすい医療の提供を目的としてクリニカルパスの充実に取り組んでいる。 ○ 各病院において、過去の患者満足度調査の結果を踏まえながらサービス向上のため各種取組みを行い、満足度は高い水準で推移している。 ○ 院内施設の改善及び利便性の向上では、補正予算も活用して積極的な投資を行い、患者や来院者に快適な環境を提供するなど、利便性の向上を図っている。 ○ 各病院の診療機能の充実・強化を図り、それぞれの病院の特性に応じた高度専門医療を提供し、高い目標に向けて努力している。 ○ 全国的に医療スタッフが不足する中、一部診療科では医師の減少による診療体制への影響が見受けられたものの、大学病院への働きかけや、採用選考の早期化など採用方法の工夫に努め、5病院全体では、昨年度同時期における医療スタッフの確保数を上回ったことは評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 患者満足度調査をもとに、院内施設の改善や利便性の向上に計画的に取り組んだ結果、患者アメニティを飛躍的に改善されていることは高く評価したい。 ○ 公的病院の使命である、提供する医療の質・患者サービスのクオリティをより高いものとするべく、府域の医療水準の向上を図るなど経営努力により得た収益は広く還元されることを期待する。 ○ 施設及び医療機器の計画的な整備において、最新の医療機器が常に稼働されるよう関連人材の計画的な確保が必要である。 ○ 府民への保健医療情報の提供・発信において、各病院が行っている診療機能の充実に係る取組みを、一層、府民に知らしめることが重要である。 ○ 患者満足度調査等の活用において、 <ul style="list-style-type: none"> ①調査結果の活用策として、目標や計画をどのように設定するかを検討することが必要と考える。 ②意見箱をより積極的に活用するなど、利用者の要望を継続的に収集・対応する取組みが重要と考える。 ③接遇の基本は「挨拶」であり、見知らぬ者に対しても全ての職員が「挨拶」する環境を整えることを望む。また、医師を対象とした接遇研修の取組みの実施が病院にとって重要と考える。 ○ クリニカルパスについては、適正かつ効率的に運用するため、定期的に見直すことが重要と考えられる。 ○ 検査の開始時間を早めるなどの効果ある取組みを望む。
H23	H24	H25	H26							
A	A	A	A							
<p>業務運営の改善及び効率化</p> <table border="1" data-bbox="142 1476 498 1554"> <tr> <td>H23</td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> </table> <p>A：計画どおり</p>	H23	H24	H25	H26	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 効率的・効果的な業務運営、業務プロセスの改善を行うため、逐次、各病院の経営状況の整理分析により、現状・課題を把握し、医業収益の拡大に結び付ける経営改善に取り組んでいる。 ○ 将来見込まれる施設整備財源等に充てるため、財源繰越制度を創設。 ○ 各病院において地域医療連携の強化や院内施設の活用により新入院患者数の増加、新規施設基準の取得による診療単価の増加等により、平成23年～26年については法人全体で、前年度実績を上回る医業収益を計上するとともに、経費節減の取組みを着実に進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ プロパー化を進めるに際しては、職員の専門性を高めることもさることながら、大阪府の健康医療行政との十分な連携の確保が求められるため、大阪府との人事交流や共通の研修を充実させるなど、相互理解や共通認識の醸成に努めることが求められる。 ○ 今後とも効率的な経営努力に努められることを期待するが、引き続き現場スタッフへの過重な負担を招くことのないよう付言する。 ○ 業務実績報告において数値の実績のみならず、成果をあげるべく行った取組み内容の具体例、そのプロセスを明確に示すことを求める。 ○ 組織マネジメントの強化において、非公務員化に伴うメリットを最大限有効に活用することを望む。 ○ コンプライアンスの徹底策として、どのように制度設計していくのか、目標設定の検討が必要と考えられる。 ○ 労働安全衛生の観点からもハラスメント対策の目標設定が必要と考えられる。
H23	H24	H25	H26							
A	A	A	A							